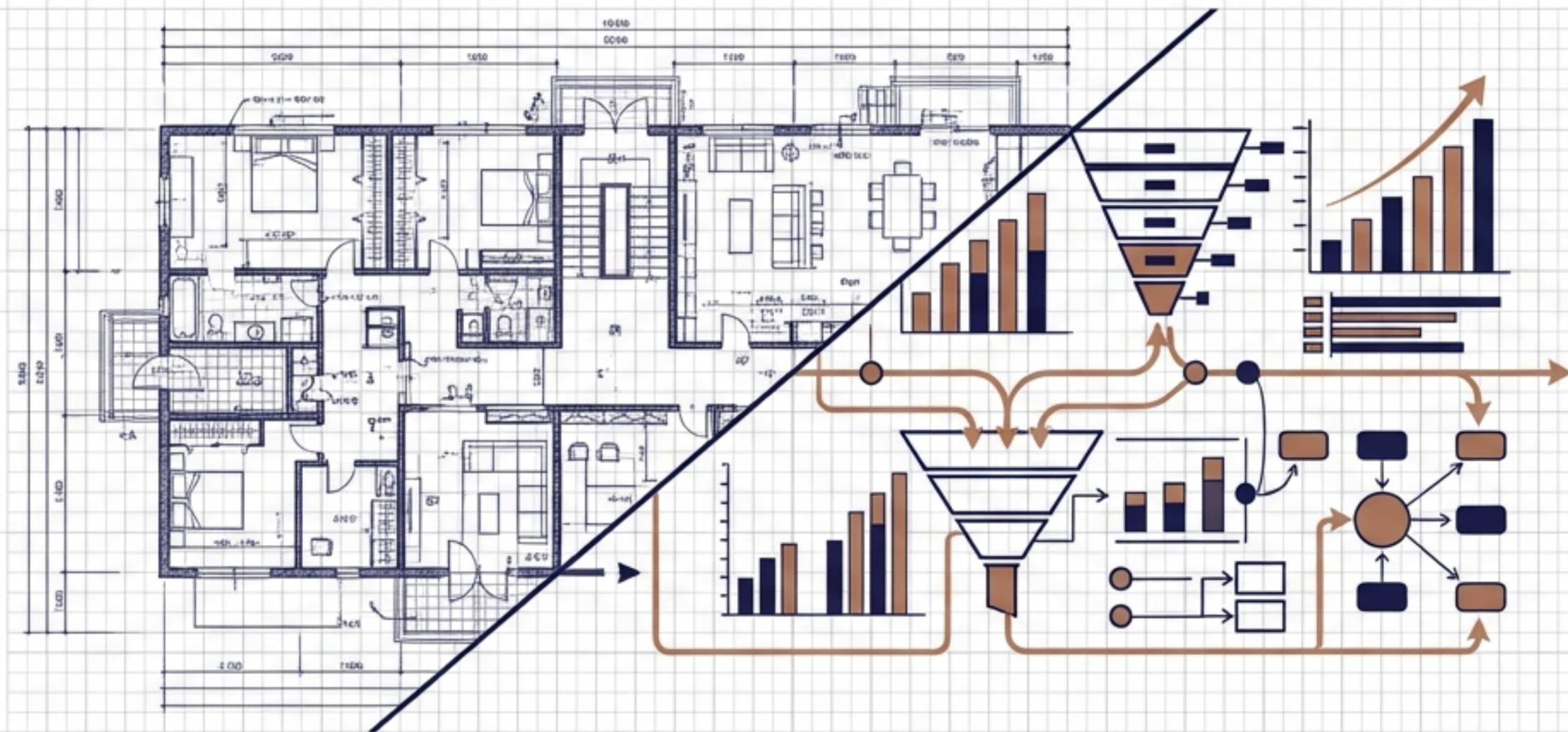


知識労働のブループリント

プロジェクト型ビジネスを成功に導く「プロジェクト管理会計」と人材育成の設計図



古谷 幸治

株式会社プロジェクト・イノベーション 代表取締役CEO / プロジェクト管理会計士

現代のプロジェクト型ビジネスが抱える「2つの不透明」



課題 1: 見えない原価

ソフトウェア開発、コンサルティング、イベント制作において、個人の「時間」が原価であるため、プロジェクト完了まで本当の収支（赤字か黒字か）が見えない。



課題 2: 育たないマネージャー

評価基準が曖昧なため、「技術に優れた作業員」は育つが、収支とチームを管理できる真の「プロジェクトマネージャー」が育たない。

属人的な進行と「どんぶり勘定」からの脱却が、知識創造サービスの喫緊の課題である。

解決の糸口は「建設業界のDNA」にある

1991年～ 建設・不動産 (朋友建設)

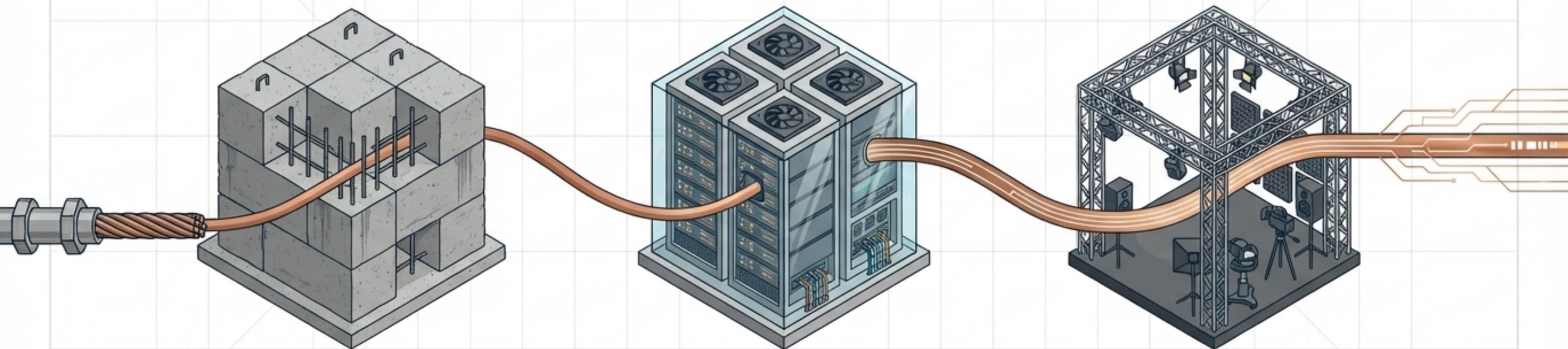
財務部での厳格な原価管理と和議 (民事再生) の経験。泥臭い現場の「実行予算」管理の原点。

2002年～ IT・ソフトウェア (エンプレックス)

取締役CFO。建設業の会計知識をIT業界に移植し、「eMplex PBM」を昇華。200社以上のコンサルティング実績。

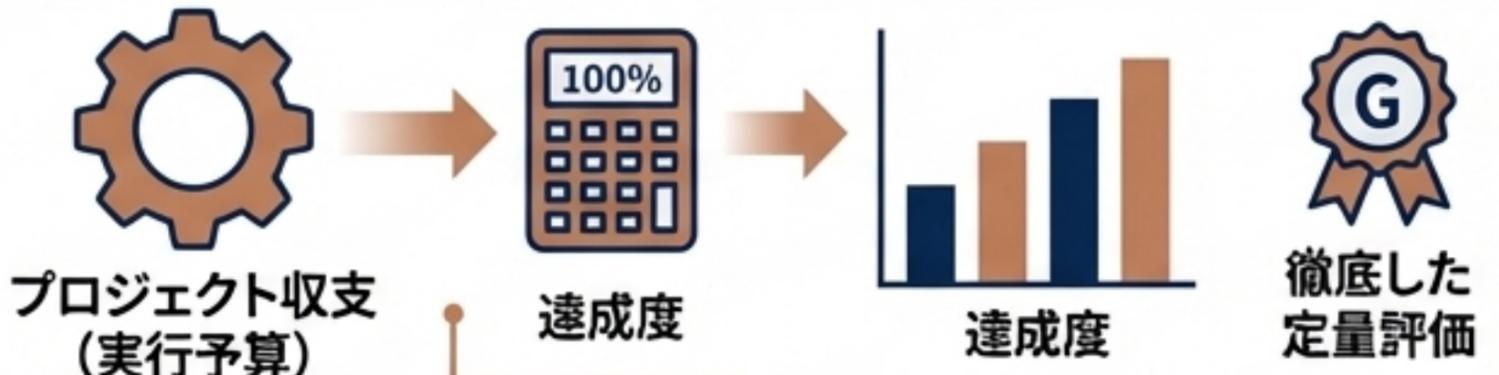
2010年～ エンターテインメント (ホリプロ)

経営企画責任者。タレントプロデュースなど、無形商材におけるプロジェクト収支管理の極意を習得。

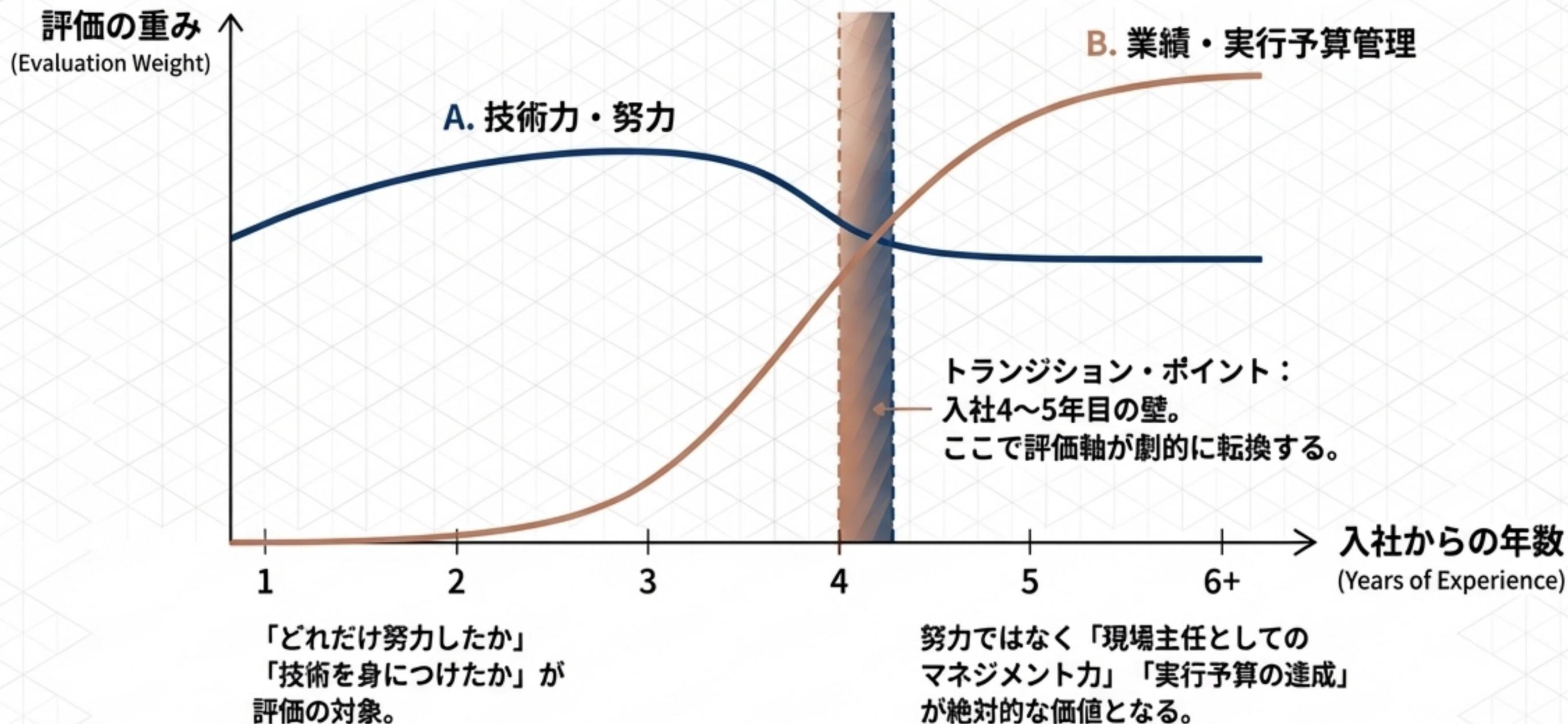


物理的なモノを建てる「建設業」も、無形の価値を創る「IT・コンサル」も、
本質は同じ『プロジェクト型ビジネス』である。

建設業のDNA ②：「仲良し評価」から「実行予算連動評価」へ

	 一般的な知識労働	 建設業界のDNA
評価の基準	 <p>「人柄」「やる気」「勤務態度」など、主観的で曖昧な定性評価。</p>  <p>主観</p>	 <p>プロジェクト収支 (実行予算) → 達成度 → 達成度 → 徹底した定量評価</p>
評価の解像度	 <p>A, B, Cなどの大まかなランク付け。</p> 	 <p> ↓ 実行予算より5%以上超えた (-5%) ✓ 実行予算の±2%におさまった (±2%) ↑ 実行予算より5%以上ダウンできた (+5%) </p>
現場の納得感	 <p>上司の好き嫌いによる不公平感。</p> 	 <p>「絶対的な公平」はないが、数字に基づくため納得感があり、将来の「現場主任」育成に直結する。</p>  <p>現場主任</p>

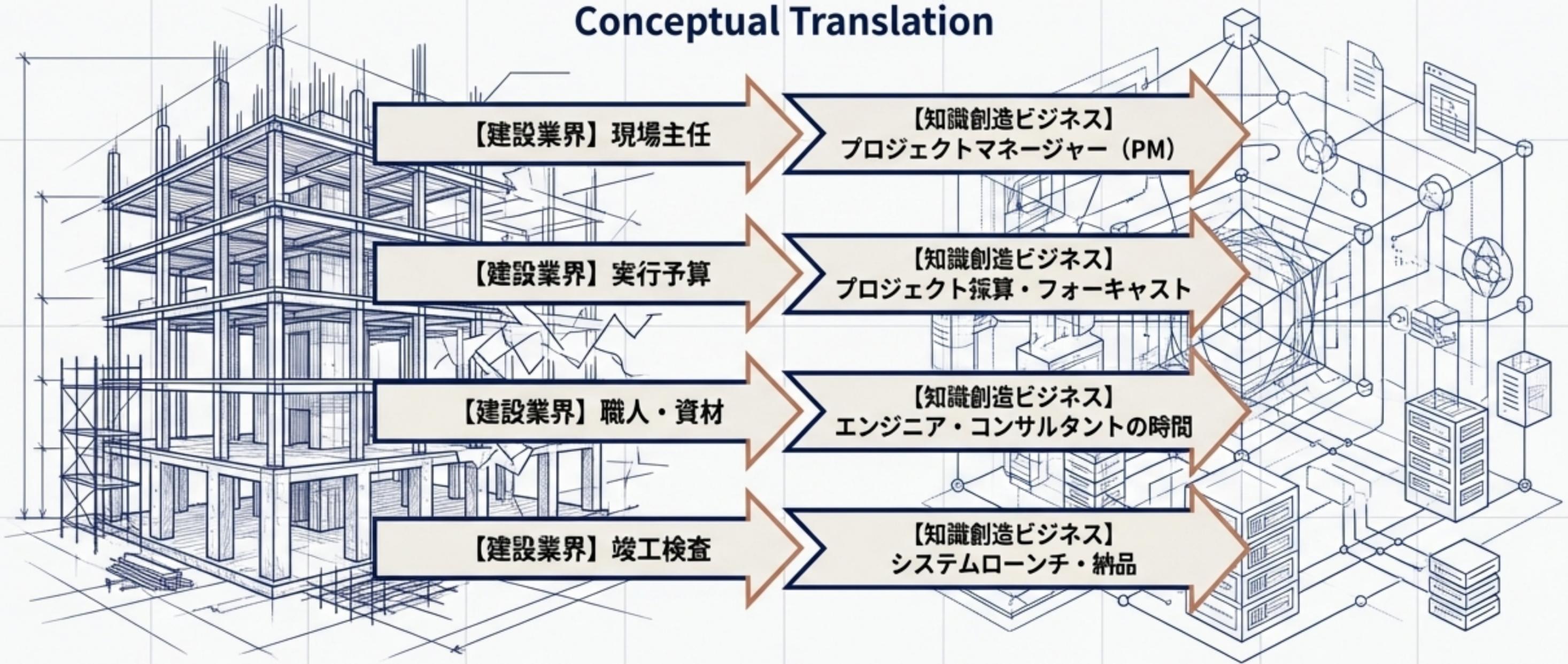
建設業のDNA ③：「作業員」から「現場主任」への不可逆なシフト



プレイヤーとしての技術力への評価は頭打ちになる。プロジェクト収支をコントロールする「予算管理能力」へ評価軸を強制シフトさせなければ、組織は成長しない。

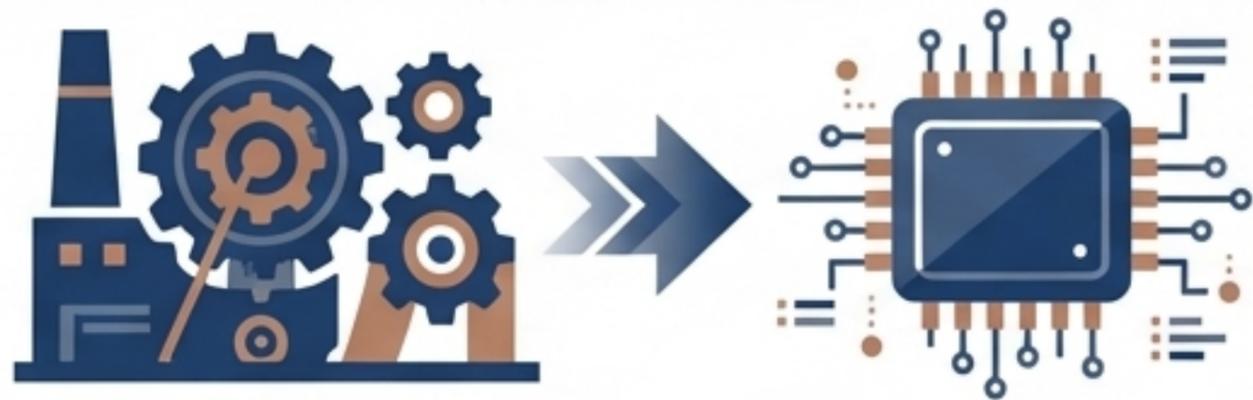
パラダイムシフト：物理的な「建設」から知識の「建設」へ

Conceptual Translation



建設現場の泥臭く精緻なマネジメント手法は、そのまま現代のIT・コンサルティングなど「プロジェクト型ビジネス」の最適解となる。これが古谷氏の提唱する『プロジェクト管理会計』の根拠である。

ソリューション：「プロジェクト管理会計（PBM）」とは何か？



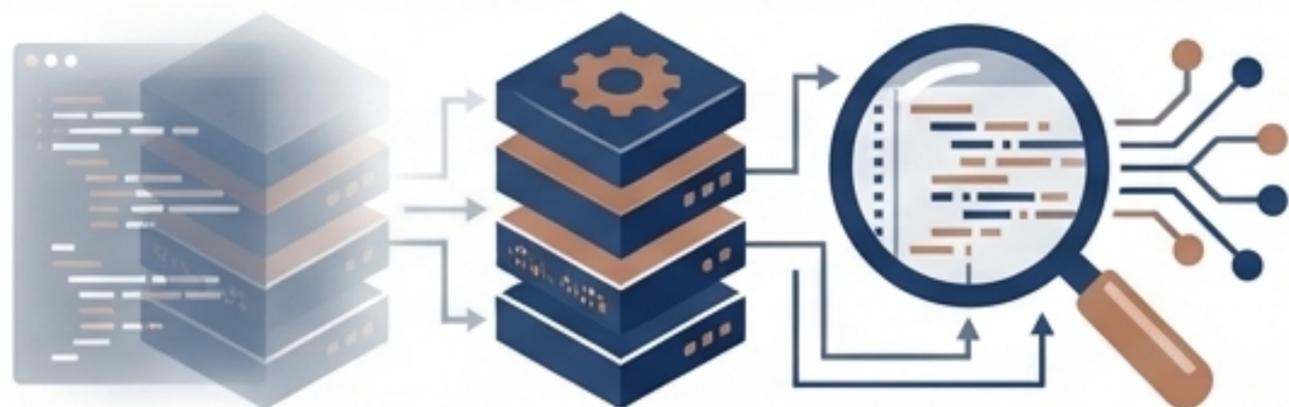
工業社会から知識社会へのシフト

工場労働の生産性指標ではなく、「知識労働者の生産性」を正確に測るための新しい経営指標。



フォーキャストマネジメントの導入

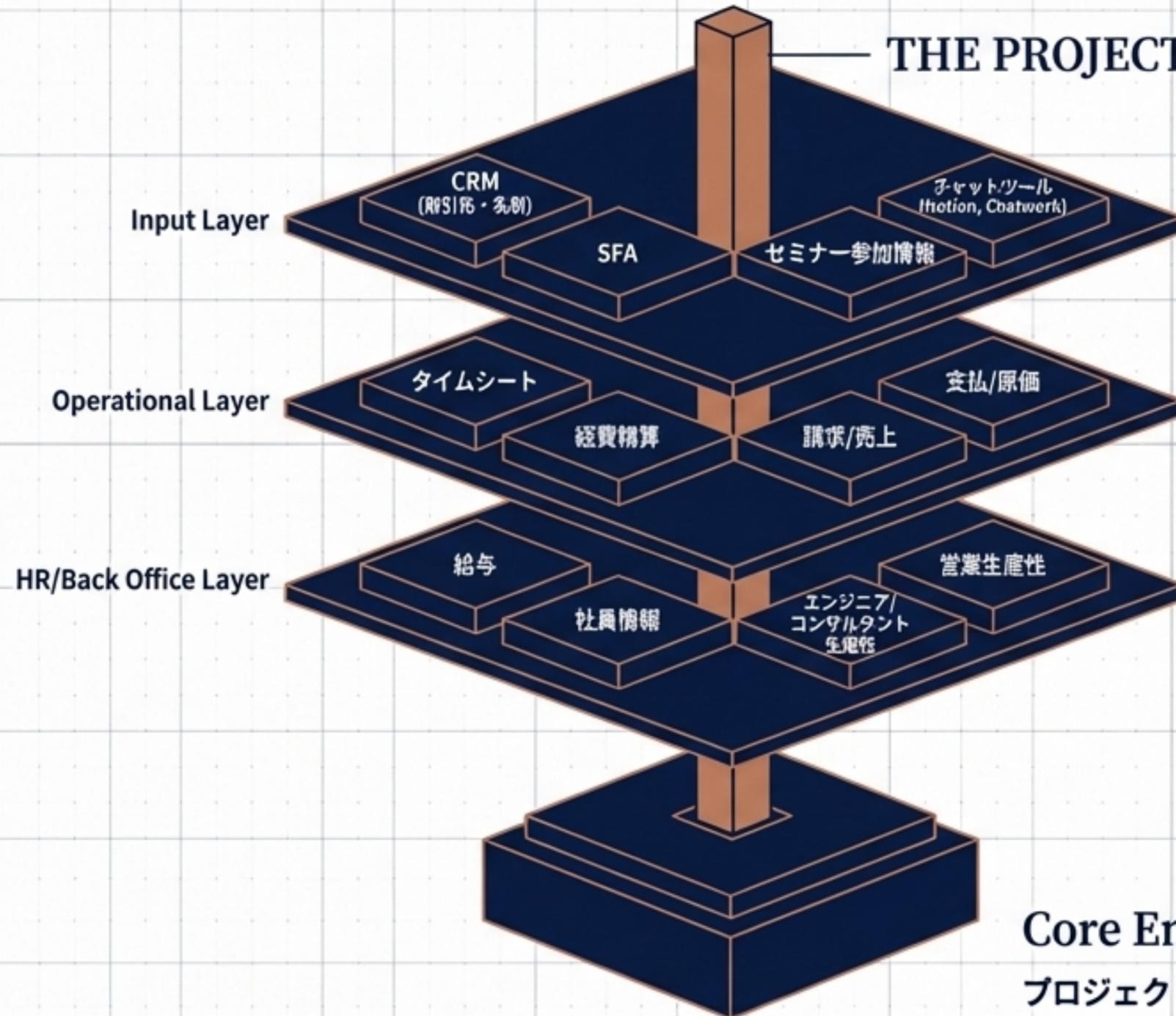
過去の「結果」を集計する財務会計ではなく、プロジェクトの「未来の着地点（Forecast）」を予測し、軌道修正を図るための管理会計。



ソフトウェア会計の複雑性への対応

研究開発、バグ修正、バージョンアップなど、IT特有の「見えにくい原価」を透明化する独自のフォーキャストレポート手法。

プロジェクトを串刺しにするデータ・エコシステム



バラバラの業務システムを「プロジェクト」という単一の軸で貫き、データのサイロ化を破壊する。

Core Engine: Project Budget Management (PBM)

プロジェクト予算実績 / フォーキャストレポート / 財務会計 / タレントパレット連携

経営の解像度を極限まで高める5つのダッシュボード

事業別粗利レポート



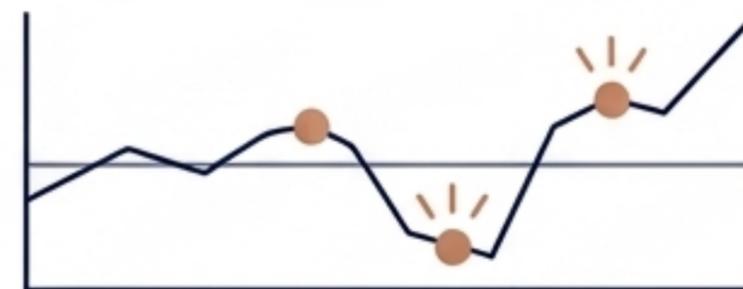
事業ごとの売上・粗利益・粗利益率をリアルタイムに可視化。

プロジェクト収支実績



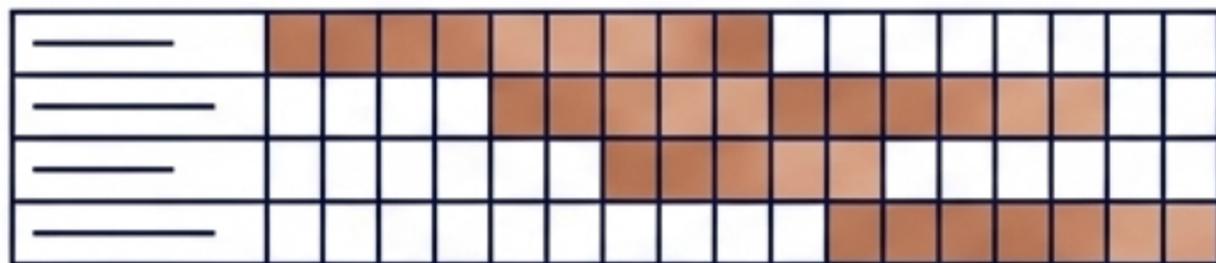
各プロジェクトの「実行予算」に対する現在の消化具合と着地見込み。

独自のフォーキャストレポート



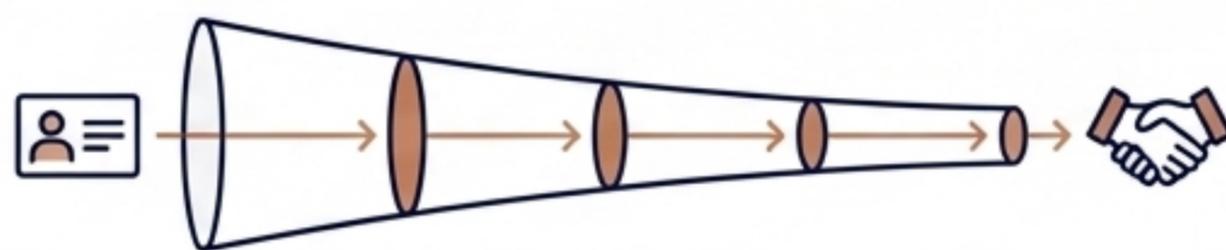
どんぶり勘定を防ぐ、未来の収益予測アラート。

稼働分析レポート



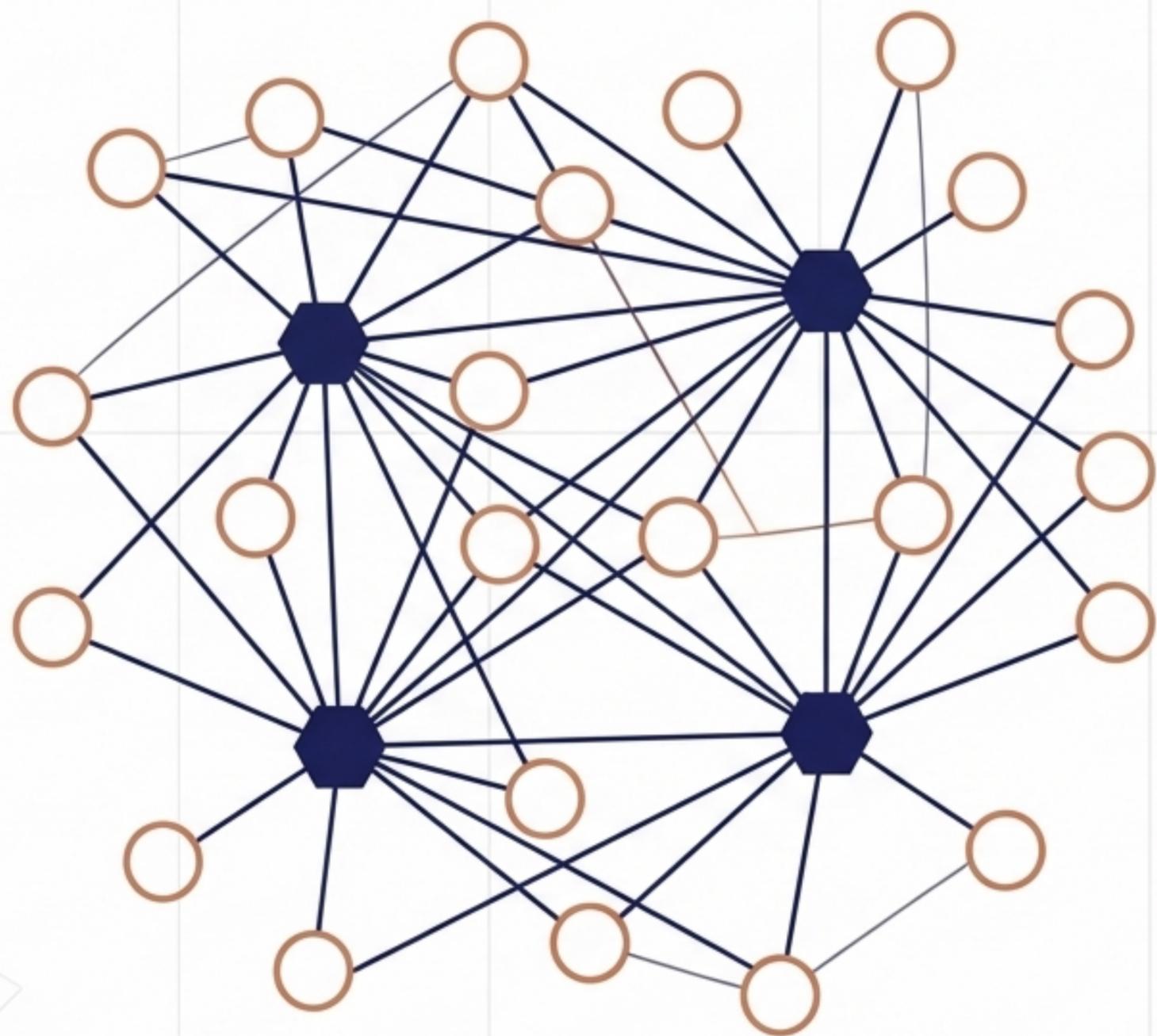
知識労働者（エンジニア・コンサルタント）の生産性とリソース空き状況の把握。

営業支援の仕組み



名刺情報を起点とした受注前（マーケティング）から受注後までのパイプライン管理。

未来のビジョン：タレントマネジメントとBtoB CRMの融合



プロジェクト起点のBtoB CRM

企業対企業の付き合いから、どのプロジェクトに誰がどう関わったかという「解像度の高い」リレーション構築へ。

パーソナルブランディングの可視化

企業ブランディング以上に、個人の実績（どのプロジェクトを成功させたか）の価値が高まる時代。その活動をMA（マーケティングオートメーション）で可視化する。

Eightチーム等の活用

名刺データやタレントパレットとの連携により、受注前のクロージングから受注後のリテンションまでをデータ駆動で支援する世界観。

知識労働者の生産性を最大化するパートナーとして

建設現場の泥臭い実行予算管理から生まれ、
IT・エンタメ業界で洗練された「プロジェクト管理会計」。
どんぶり勘定を終わらせ、真のプロジェクトマネージャーを
育成するための設計図がここにあります。



株式会社プロジェクト・イノベーション
代表取締役CEO / プロジェクト管理会計士
古谷 幸治 (Yukiharu Furuya)
[Website URL / Contact Email]
Expert in IT, Consulting, Web, Event, Real
Estate, HR Project Management